

なでしこ通信 第 60 号

《隔月発行》

— 目 次 —

- ★福山雅治さん、是非「国家に貢献」を！
麗澤大学教授 八木 秀次
- ★慰安婦問題 ～国連に真実のレポートを届けよう～
- ★夫婦別姓論議
- ★政府による三世代同居の推進
- ★男女共同参画が家庭を崩壊させている現実
- ★良書のご紹介
 - ・先生、日本ってすごいね～教室の感動を実況中継
 - ・まだGHQの洗脳に縛られている日本人
- ★ゴシップ
- ★木村秋則さんの歴史軽視に異議を呈す
- ★沖縄基地問題～国連攻防 翁長知事 vs 我那覇氏
- ★救う会愛媛・拉致問題
- ☆事務局から

福山雅治さん、是非「国家に貢献」を！

麗澤大学教授 八木 秀次

「最後の独身大物芸能人」と言われた福山雅治が女優の吹石一恵と結婚したことについて菅義偉内閣官房長官が 9 月 29 日のテレビ番組で「本当、良かったですね。結婚を機に、やはりママさんたちが、一緒に子供を産みたいとか、そういう形で国家に貢献してくれればいいなと思っています。たくさん産んで下さい」と発言したことが問題視された。

その後の記者会見で記者から、「女性からすると、子供を産むことが前提というような発言では

ないか」と問われ、菅氏は「そういう趣旨ではない」と説明し、「結婚や出産は個人の自由。子供を産みやすく育てやすい社会を作るのが政府の役割。女性の輝く社会をつくるように努力していくことが政府の方針だ」と述べた。また、「国家に貢献となると、産めよ増やせよという政策を連想する人もいるのではないか」との質問に「まったく当たらないと思う」と発言、「結婚について聞かれましたので、国民の皆様から見ても大変人気が高いビッグカップルですので、世の中が明るくなって、まさに皆様が幸せな気持ちになってくれればいいなと思っている中での発言だった」と答えている。私から見れば、抑制的過ぎるほどで、発言のどこが問題であるのか、さっぱり理解できない。

そもそも菅氏の発言を問題視している人たちは結婚とは何かを理解できていないのではないのか。人間関係には様々なものがある。他人と他人の関係では同性、異性を問わず、友人関係、職場の同僚、師弟関係、趣味の同好などがある。異性間では恋愛関係もあれば、同棲、内縁、事実婚の関係もある。そんな中で男女の法律上の結婚（婚姻）関係だけが制度として特別の保護を受けている。結婚すれば、夫婦は同一の戸籍に登載され、共通の姓を名乗る（民法 750 条）。同居・協力・扶助義務を課され（同 752 条）、貞操を守る義務もある（同 770 条）。婚姻費用を分担し（同 760 条）、日常の家事に関する債務については連帯して責任を負う（同 761 条）。配偶者が死亡すれば、その財産の半分を相続できる（同 900 条）。税制でも配偶者控除や配偶者特別控除を受けることができ、社会保障においても健康保険や年金で配偶者は優遇される。事業所では配偶者手当は支給される。このように男女の婚姻だけが優遇されるのはなぜなのか。

簡単に言うと、そもそも婚姻（結婚）は子供を産み、育てるための制度として構築されている。子供を健やかに育てるためには夫婦が一体となって協力しなければならないことから、その関係を守るべく制度として優遇しているのだ。さらに、結婚は、そこにおいて次世代の国民や労働力、社会保障の担い手を産み出し、育てるがゆえに国としても優遇策を打ち出しているのだ。

その意味では、結婚は「子供を産むことが前提」であり、子供を産むことで「国家に貢献」することが期待されている。菅氏の発言は問題視されるどころか、結婚とは何かということについて、意義を踏まえた発言というべきである。もちろん結果として子供が産まれない夫婦もいる。出産を予定しない高齢者の結婚もある。しかし、これらは例外で、飽くまで制度としての結婚は、子供を産み育てるためのものであると確認しておく必要がある。

このようなことを考えると、6月に米連邦最高裁で合法化判決が出た同性婚や4月に渋谷区で条例が施行された「結婚に相当する関係」とする同性パートナーシップの問題点が浮上する。言うまでもなく、子供は男女の間でしか産まれない。同性間で子供を産むのは「生物学的障害」で不可能だ。このことが男女の婚姻（結婚）と同性の恋愛感情に基づく結びつきとの決定的な違いだ。

同性愛者への寛容や配慮は必要だが、子供を産み出す男女の結婚と子供を産み出さない同性カップルの関係を同一視してはならない。また、男女の結婚の意義を見失ってはならない。結婚の意義を再認識することが少子化克服の第一歩であると思うのだ。（正論 平成 27 年 12 月号 フロント・アベニュー）

慰安婦問題

～国連に真実のレポートを届けよう～

7月に国連人権委員会（ジュネーブ）の女子差別撤廃条約の予備セッション（presession）で、「なでしこアクション」の山本優美子さんと次世代の党の杉田水脈（みお）前衆議院議員が「慰安婦は性奴隷ではない」と発表されました。

その発表を受けて、委員会から日本政府への質問の中に「慰安婦は性奴隷ではない、という意見があるがどうなのか？」という項目が追加されました。日本弁護士連合会（日弁連）の戸塚悦朗氏が国連に足繁く通って「慰安婦は性奴隷だ」というのを認めさせて、どの委員会もこれを真実として受け止めており、委員会がこうした質問をすることは画期的なことだそうです。

政府の後押しをする意味でも、多くの NGO が委員会にレポートを出すことが、日本の名誉回復の大きな助けになるというご連絡を、上記の予備セッションに行かれたエドワーズ・博美先生からいただきました。

エドワーズ先生は続けておっしゃっています。「今まで国連に出されるレポートは常に左翼団体からで、それを真に受けた国連によって日本の国が弱体化されてきました。『非嫡出子』の遺産相続も左翼が出したレポートのせいで国連委員会より政府に圧力がかかり、ついに法制化されました。このままでは日本の国は国連で暗躍する左翼の思いのままです」。

めざす会では、下記のようなレポートを作成、来年1月の発送に向けて準備中でございます。

慰安婦問題に関する国連人権理事会への意見書（提出英文の和訳）

2015年8月3日付討論リスト第9項は次のように述べています。「理事会は、慰安婦強制連行には何ら根拠がないという主張が最近公表されたことを知った。……については、政府が教科書に慰安婦問題を取り入れ、また、国民意識の向上を図る意思があるのかどうか示してもらいたい」

上記の慰安婦問題に関して、私たちは「慰安婦強制連行には何ら根拠がない」という主張を強く支持します。人権理事会がデマを鵜呑みにし、自ら事実を調査することなく、慰安婦は性奴隷であるとして日本を非難してきたことはきわめて遺憾です。慰安婦についての誤った認識を宣伝する人々は日本および韓国の反日派です。近年、韓国の政策は反日に集中していて、慰安婦問題もこの国策遂行の手段以外の何物でもないと思われまます。もし、韓国がこの問題で国際的関心を引こうとする目的が真に女性の人権の増進のためであるならば、朝鮮戦争の際に米兵を慰安した韓国女性やベトナム戦争の際に韓国兵を慰安したベトナム女性についてなぜ口を閉ざしているのでしょうか。また現在フィリピンには、韓国男性の無謀な行為の結果として、「コピノ」と呼ばれる子供たちが多

数おり、偏見にさらされ人権を侵害されています。韓国政府はなぜ彼らを放置しているのでしょうか。

・慰安婦は兵士を相手にする戦時売春婦

彼女らの行為はまさしく商行為です。高い収入を得ていたのであり、奴隷労働をさせられていたわけではありません。働く際は当然職場である慰安所に拘束されました。また、慰安所はその性格上戦地の近くにありますが、彼女らが自由に行動できる範囲は当然限られました。ただし、彼女らの生活労働範囲が制限されていたという事実が彼女らの自由が奪われていたことを意味するわけではありません。

・慰安婦の生活の実態

米軍は第2次世界大戦末期に韓国人慰安婦から聞き取り調査をして「日本軍捕虜尋問報告#49」を作成しました。それは、慰安婦の生活が悲惨ではなかったことを明示しています。人権理事会は慰安婦が性奴隷だったか否かを判定する前に、この報告書を参照していただきたいものです。また、韓国人元慰安婦の多くの証言が、生地や生年、働いた慰安所の場所などに関して信憑性を欠くことに注意してください。

・70年前の日本の社会と世界の状況

70年前の日本において、売春は公認された職業でした。それは、当時日本の一部であった朝鮮半島でも同じでした。そして、世界中に娼婦がいました。彼女らの多くは貧しさゆえにその職業を選びました。売春は日本特有の制度ではなかったのです。それは多くの貧しい女性の生活の実態であり、現在においても同じです。最近、韓国では売春婦たちがデモを行い、売春の権利を要求しました。何ゆえに、日本の慰安婦制度が70年後の今になって突出して取り上げられ、女性の人権侵害であるとして非難されるのでしょうか。それは根拠のない非難です。

・日本軍による強制連行は大ウソ

上述のように、70年前の日本と朝鮮には売春婦がいたのですから、日本軍は強制連行を行う必要などありませんでした。募集広告や遊郭への依頼によって容易に慰安婦を集めることができたのです。「強制連行」という言葉は吉田清治が「私の戦争犯罪」というデタラメ本で初めて使い、朝日新聞が広めました。しかし一昨年（2014年）、朝日新聞は誤りを認め、公式に謝罪しました。また、「従軍慰安婦」という言葉が千田夏光という作家によって戦後に作られ、日本軍が慰安婦を直接管理下に置いたという印象が広まる原因になりました。

・河野談話について

朝鮮半島における慰安婦強制連行を日本政府が認めた証拠として、河野談話を持ち出す人たちがいます。しかし、彼らの多くは自分自身で河野談話を読まずに、単に伝聞を信じているのではないのでしょうか。もし河野談話を丁寧に読めば、それが朝鮮半島において強制連行があったとは認めていないことに彼らも気付くはずなのです。その一方で、河野談話は強制連行を全面的には否定していません。それは多分、インドネシアにおいて数人の不埒な日本軍兵士がオランダ人女性を収容所から連行して慰安婦にした犯罪があったからです。なお、その兵士たちは日本の軍事裁判を経て罰せられ、そして後になって戦犯として再び罰せられました。それから、河野談話に関する誤解の原

因をつくったのは河野洋平氏自身だということを指摘しておきます。腹立たしいことに、彼は記者会見の席上で、政府の公式見解を真に示している河野談話に反して強制連行を認めてしまったのです。

・慰安婦の出身地と人数

韓国人が大騒ぎするので、慰安婦の大多数は朝鮮半島出身であるような錯覚に陥ります。しかし、慰安婦の大半は日本人です。朝鮮人は2~3割程度だといわれます。また、20万人の朝鮮女性が強制連行され慰安婦にされたという主張がありますが、慰安婦の全数は2万人程度です。この混乱が生じたのは、朝日新聞の記者が女子挺身隊員を慰安婦と混同したからです。慰安婦の全数が2万人程度ですから、朝鮮人慰安婦はせいぜい5千人程度であり、20万人とはまるで違います。

・日韓基本条約

日韓国交樹立交渉に際して慰安婦問題が話題にならなかったから、慰安婦への補償問題は未解決だ、と主張する人たちがいます。しかし、それは欺瞞です。この問題が取り上げられなかったのは、交渉当時は日本人も韓国人も誰もが慰安婦が高収入の売春婦であることを知っていたからです。この問題が出現するのは吉田清治のデタラメ本が出版され、朝日新聞が間違った報道をした後のことで、左翼メディアや反日派がそれを利用したのです。

上記の事実に基づいて、人権理事会提出の討論リスト第9項が求める「日本政府が慰安婦問題を教科書に取り入れ、また、国民意識の向上を図ること」の必要を私たちは認めません。

(平成27年11月22日作成)

夫婦別姓論議

結婚すると夫婦が同じ姓を名乗るとする民法750条と、女性は離婚後6ヶ月経過しなければ再婚できないとする同733条を、「法の下での平等」を保障した憲法に違反するとした2つの訴訟について、最高裁大法廷は先頃、当事者の意見を聞く弁論を開きました。12月16日に判決が出されます。2つの裁判はともに1審、2審と憲法に違反しないとして原告が敗訴しています。

原告の人たちは、名前は譲れない命そのものであるとか、女性の活躍を望むなら別姓を認めよとか言われます。しかし、どういう家庭環境の元で育つのが子供にとって幸せかという視点がまったく欠如しています。男性は陽であり外への強さにおいて特徴があり、女性は陰であり内のことに優しく細かく気づく特徴があります。女性の社会進出が、女性自身の性質を活かして男性と共創してその効果を大きくする働きでなく、女性が男性化して男性を圧倒して「女性なるもの」をなくしてしまうのではあまりにも悲しいではありませんか。

16日、産経新聞・東京の文化部の記者からお電話をいただきました。「夫婦別姓に反対する立場から、結婚によって姓が変わったことに関する感想を体験から述べられる人を紹介して欲しい」とのこと。「離婚して旧姓に戻り、子らとの姓が違うことを残念がっておられる離婚経験者たちや通

称で結婚後も仕事をしている方も！」と思いましたが、一人でよいとのこと。松山市の 50 代の主婦の方が電話インタビューを受けて下さいました。

政府による三世代同居の推進

平成 27 年 10 月 27 日付けの産経新聞で、以下の希望を感じる記事を読みました。

政府、子育て支援の一環 ～ 三世代同居 住宅改修で税優遇

政府は 25 日、安倍晋三政権が掲げる「新 3 本の矢」の「第 2 の矢」である子育て支援の一環として、親世代との同居を目的とした改修工事の費用について、所得税や相続税を軽減する方向で検討を始めた。世代間の助け合いで子育て負担を緩和、出生率低下に歯止めをかけるのが狙いで、国土交通省の有識者会議などでも議論される見通しだ。

トイレや浴室の増設などの同居向け改修を行った世帯に対し、工事費用の年末ローン残高のうち 5%分を 5 年間、所得税額から控除する案が有力。所有者の子供または孫が中学生以下であることが条件で、住宅ローン減税とは併用できない。

同居中の親世代から住居用の宅地相続を受けた場合、同居期間が 3 年以上ならば、相続税の特例による減額幅を現行の最大 80%から最大 90%まで引き上げる案も上がっている。年末の税制調査会で本格的に議論される予定だ。

それで思い出したのが、山谷えり子参議院議員（第 2 次安倍内閣で拉致問題担当大臣、内閣府特命担当大臣など）と念法眞教（総本山 大阪市）の桶屋良祐教務総長の「日本の国柄を取り戻そう」と題した、『鶯の声』（平成 27 年 11 月号）に収録された対談です。

山谷大臣（当時）は自民党が平成 24 年 4 月にまとめた憲法改正法案に、憲法起草委員として、家族を保護、尊重する条項を入れられたこと、また、三世代同居を優遇する税制の必要性を述べておられます。三世代同居ですと、祖父母が孫にいろいろなことを伝えることで、両親の行き届かないところを補ってくれます。山谷大臣の出身地の福井では三世代同居が多く、学力も高いと言われていますが、大臣は「実は共働き率も高いのです。女性を家に閉じ込めようというのではなく、家族がそれぞれの持ち味を發揮する上で三世代同居は素晴らしい。三世代が上手くやっていくには、『和』が無ければ出来ません」と、お互いを尊重する心の大切さを説いておられます。「おじいちゃん、おばあちゃん存在が、家族全体に和合の土壌を作ってくれます。政策として具現化したいですね。私は税制改正の度に三世代同居を優遇する税制の導入を訴えています」。また、住宅メーカーには三世代同居の注文が結構多いそうですが、「『百年住宅』という長期間住める住宅について、優遇税制がありますが、三世代同居を推進することについては、『ライフスタイルに干渉することになるから出来ない』と言われてますが、承服し難いです。本来の日本人のありようだったわけですから」。

また、桶屋教務総長は、今の住宅には神棚を置く場所がないことを、特定の思想の人が公団住宅を推し進めた結果と指摘されています。「神棚の場所を設けず、仏壇を置く場所も、床の間も設けない。そして家族4人で暮らせるような広さしかない。核家族化を推し進めたんですね」。それによって家族という共同体が壊され、神仏祖先を敬う心が薄れてしまいました。今後は日本人の精神性を大切に作る住宅、つまり、神棚や仏壇を置ける場所や床の間もあるゆとりある住宅を政府に望んでおられます。実際、東日本大震災の長期にわたる仮設住宅でも「神棚、仏壇を置く場所をどうして作って貰えないんですか」という声があるそうです。

男女共同参画が家庭を崩壊させている現実

59号の「男女共同参画と家庭の崩壊」でご紹介した男性からいただいたご文章です。

数年前、突然妻が娘を連れて家出しました。家出当初は何が起こったのか全くわからず、その軌跡を辿るうちに男女共同参画がこういうことに荷担している事に気づきました。

私は仕事を頑張っており、家庭は普通にうまくいっていたと認識しています。娘が小学4年になり、思春期で父親を避けるようになりました。それが原因で些細なことで妻と口論するようになってしまいました。その直後に女性相談所に行っていた事が、後日わかりました。

妻は専業主婦であり、以前より英語の絵本の翻訳を、近所の仲間と昼間だけ趣味でやっていました。相談所に行ってから、夜中の3時まで自室にこもって翻訳の勉強をするようになりました。何をしているのか聞くと、「コンクールに応募して賞を取って、翻訳の仕事をする」と言いました。こういう状況になり、当然会話も少なくなり、家事もおろそかになりました。何かの思想を教えられて考え方を変えられてしまったのだと思いますが、急に家庭がギクシャクしてきて歯車が噛みあわなくなりました。

多くの当事者と話をする機会がありますが、女性相談所に行くと別人になってしまうと聞きます。相談に行くと、3ヶ月～1年以内に子供を連れて家出してしまうようです。恐ろしいのは、相談所経由で家出した場合には100%離婚になってしまいます。

国のきちんとした機関であれば、相談を受ければ家庭を良くするように指導すべきです。女性で相談所に行った複数の方から聞きましたが、何でもDVにしてしまい、家族を破壊する事を推進しているのが現実のようです。自民党の多くの議員や保守系の識者が「男女共同参画は家族を破壊する」と「正論」等の雑誌で述べておられます。

雑誌を読むと、男女共同参画は偏った思想を持った左翼が関わっていて、専業主婦に対してあなたは才能があるのに家庭に閉じ込められていて、無銭労働を強いられている奴隷であり搾取されていると教えるようです。女性に生まれてきたことが不幸で、男性は敵だと教え女性は自立しなければ

ばならないと刷り込まれるようです。偏った思想とは、フェミニストが教えるジェンダーフリーという共産党の中でも過激な新左翼とか中核派という組織の思想のことです。

主婦は、家事をして家族を支えているという自覚を持っていなければやっていけません。こういう思想を教えられると、相手に対して感謝の気持ちを持たなくなり、家族がバラバラになってしまいます。連れ去り弁護士や女性相談所等の行政機関がちょっとした夫婦の行き違いを拡大解釈し、離婚を推奨しています。連れ去り弁護士は離婚させて成功報酬を貰うのが目的だと言っても過言ではありません。

中学の娘は、2年半ずっと不登校で対人恐怖症で引きこもりになってしまいました。私は面会さえできない状態が続いています。このような事態になってしまい妻の母親は心労のあまりうつ病になって3年間も入院したままです。

男女共同参画は家族を破壊するという事は、紛れもない事実です。自民党や保守の方々によって、こういう仕組みが改められる事が必要だと切実に思っております。

私は目下、良心的な弁護士やこういう仕組みに危機感を持った方々を紹介され、娘との関係を修復するために何をすべきか模索中であります。（平成27年10月30日）

良書のご紹介

『先生、日本ってすごいね～教室の感動を実況中継～』

公立中学校教諭 服部剛 高木書房

ー 授業づくり **JAPAN** の 気概ある日本人が育つ道徳授業 ー

服部先生が取り上げられた話題のなかで、「昭和天皇とマッカーサー」の授業を受けた生徒達の感想がひととき感動的でした。

★今日、この話を聞いてとても感動した。現在、自分を犠牲にして他人を助けるという行動をとれる人はいるのか。自分も、このような美しい正義感が持てるような男になりたい。

★とても感動しました。昭和天皇のように国のことをちゃんと考えてくれている人がいてくれたからこそ、今の日本はあるのだと改めて感じました。また、昭和天皇はこのことを亡くなるまで誰にも言わなかったというのもすごいことだと思いました。昭和天皇には、本当に感謝しなければいけないと思います。そして、日本の国を大切にしていけないと思いません。

★昭和天皇はすごくカッコいいと思った。しかも、そんなすごいことを鼻にかけないで、「男と男の約束」と言って死ぬまで話さなかったなんて、尊敬した。マッカーサーもひどい人かと思ったが、天皇の言葉に感動して日本国民を助ける方向に行ったことは良かった。

★今、僕が生きているのも昭和天皇おかげだなんて思った。他の国とは違うリーダーで、さすが日本だ。マッカーサーが見送りに行かないと決めていた心を動かしたのもすごい。最後に「男子の一言は守らねば」というのがかっこよかった。

★私の予想通り、昭和天皇はとても立派な人でした。昭和天皇のおかげで今があるのだと思います。マッカーサーが心を動かされたのは無理ありません。私たちは二度も昭和天皇に助けられたのですね（服部先生注…一度目は終戦のご聖断）。神に近い存在です。私が歴史人物で一番尊敬するのは、昭和天皇になりました。

★終戦のときもそうだったが、昭和天皇は本当にすごい人だった。ちょっとしたことで言い訳するようなのは、人間の器がちっちゃい証拠だなんてあらためて思った。昭和天皇がいなかったら、日本はもっとぼろぼろになっていただろうし、私だって生まれてこなかったかもしれない。天皇の勇氣（「勇氣」だなんて軽いことじゃないけど）のおかげで、戦争の被害は少なくてすんだと思う。

★自分が死刑になるかもしれないという恐怖の中で、こんなことをできるなんて普通の人ではないと思いました。天皇というのは国の象徴と思っていましたが、日本人の心の象徴でもあるな、と思いました。天皇が、なぜこんなに長く続いているのかがわかった気がしました。

★少し、うるっと来ました。こういう立派な人が日本を守ってくれたおかげで今の日本、そして今の自分たちがあるんだと思いました。天皇がヒトラーのような独裁者だったら、天皇の制度が千年以上も続くわけがありません。やはり、国民を考えてこそその天皇だったのです。

★マッカーサーの心を動かした昭和天皇は偉大だと思った。昭和天皇はきれいでまっすぐな心を持っていたから、マッカーサーの心を動かせたのだと思う。昭和天皇がいなかったら、日本はどうなっていたかわからなかったと思った。

★マッカーサーが、昭和天皇が命乞いのために来ると思っていたことを知って、僕は「日本の天皇をなめんなよ！」と思った。このような天皇がいてくれる日本は本当に幸せだと思う。尊敬…とかの言葉じゃ示せないくらい、昭和天皇には感謝したいと思った。

★こういう話を知ると、こんな素晴らしいトップがいる国に生まれて良かったと思う。天皇という人はすごいんだと感じた。自分よりも国民を助けてほしいという考えは、人の上に立つ人の思考だなと思った。

★天皇の言葉を聞いた時、自分は鳥肌が立った。マッカーサーの気持ちが変わるのは当然と思う。国民を本当に大切だと思っている人にしかできないことだ。

★日本国民がなぜ天皇をこれほど慕っているのかがわかった。天皇は自分の利益ではなく、国民のため、日本のためを思って行動していたからだ。天皇は外国の王様とは違うのだと思った。世界で最も謙虚な国のトップだ。

★日本の天皇は外国の王様たちとは違ったものである。日本のリーダーではあるけれども、リーダーというより「守り神」のような存在だと思ってしまう。「誠」があって美しいと思った。日本国民で良かった、って安心できる。

★昭和天皇ってすごいなあって思った。天皇のこのような考え・行動は、本気で国民を信じていないとできないと思う。マッカーサーも、そういうことを感じ取れる人で良かった。

★日本国憲法の最初に天皇は日本国と日本国民統合の象徴だと書かれていても、誰もが納得だ。外国の人にも、日本のリーダー天皇は常に国民のことを考えてくれているのだと自慢できる。まさに最高の象徴だ。

★昭和天皇は日本で一番立派な人だと思う。ちょっと前まで殺し合いをしていた敵国でも、心は動かされるんだなって思った。戦争はとてつらかったけれど、やはり国民は天皇が支えになっていたんじゃないかと思った。

【付録】では金栗四三（かなぐり しぞう）を紹介させていただきました。

『まだGHQの洗脳に縛られている日本人』（PHP研究所）1500円＋税

米カリフォルニア州弁護士 ケント・ギルバート著

「この本を手にとって下さる日本の読者の皆さんに、私が自信を持って言えることがあります。それは、「愛国心」さえ取り戻すことができれば、日本は名実ともに、世界で一番幸せな国になるということです。日本という素晴らしい国を愛し、将来を案じている一人のアメリカ人として、私は次のことを皆さんに言いたい。一方的な「嘘」や「プロパガンダ」に負けないでください。そして、今こそ日本人としての「愛国心」と「誇り」を取り戻して下さい。そのために必要な知識を学び、それを堂々と主張できる「勇気」を持って下さい。

とにかく、戦争というのはみな同じで、いかに情報操作するかということです。（略）たとえば湾岸戦争の際にはクウェート人のナイラという15歳の少女がアメリカで演説して、「イラク兵が病院に押し入ってきて、赤ん坊を保育器から出して殺した」などと言うわけです。彼女の演説を聞いてアメリカ人は本当に怒りました。そんなことをするフセインは許せないと。しかし後になって、この少女は在米クウェート大使の娘で、イラクのクウェート侵攻時にはワシントンにいて、何も見ていなかったということが判明したのです。しかも、ナイラのスピーチ原稿を書き、感動的な演説の仕方を教えたのは、アメリカの広告代理店でした。」（169～170頁の「わが祖国アメリカよ、いつまで「反日プロパガンダ」を続けるのか」より）

講演会のご案内

会場：高知県新聞放送会館(RKCホール)

日時：12月19日（土）13時～

主催：自民党青年部

講師：ケント・ギルバート氏 米加州弁護士・タレント

伊藤哲夫氏 日本政策研究センター代表

お問合せ・お申込み：090-1004-4004

当日松山から車が出ます。

ゴシップ

安保法制についてのコメントで芸能人の知能が知れたりします。

ラサール石井：国会前の反対デモに参加したことに反発する声ツイッターに届くと、「国会前に行っただけで『サヨクか』とかうるせえわ。演劇仲間はみんな行った。悪いけどスマホの前でウダウダしているあんたらと違って、俺達世代は身体の芯から人間の作りが違うんだ！」

笑福亭鶴瓶：「違憲という人がこれだけ多いのにもかかわらず、なんをしとんねん」「民主主義で、決めるんなら、多い方を取るべきですよ。変な解釈して向こうへ行こうとしているんですけど、絶対あかん」

坂上忍：「大反対。武器を持たないで憲法 9 条を持っておけばいい」

一方…

小藪千豊：「中国が思いっきりミサイルと軍人をパーツと並べていることについて、デモに参加している人たちはどうお考えですかね」

松本人志：「ちょっとニュースに誘導されている感じはある」「もし本当にこのままでいいと思っているのであれば、完全に平和ボケですよ」「戦争は向こう（中国）から近付いて来ているわけやから、そっち（中国）に向かって言わないと」

堀江貴文：「安保反対デモに行ってる事カミングアウトしたら私は採用しませんよ。仕事出来ないと思うから」「思想で不採用だと言っているのではなく、間違った理論に盲従する頭悪そうな奴だなんて思うだけ」

無肥料・無農薬のリンゴ栽培を成功させた青森の 木村秋則さんの歴史軽視に異議を呈す

著書『心が変われば地球は変わる』（扶桑社文庫）にこんなことが書かれています。

ある講演会でのことです。会場には 1000 人を超す聴衆が集まっていました。そこで私は「加藤清正が来た！」と言われたのです。加藤清正は安土桃山時代から江戸初期にかけて活躍した武将で、豊臣秀吉の命を受けて朝鮮半島に出兵した人物です。突然 400 年以上も前の朝鮮出兵の話を持ち出されて、正直驚きました。

日本と韓国の間には、太平洋戦争の際にも悲しい歴史があります。私たち日本人は忘れていたとしても、韓国の人にとって、はるか昔の朝鮮出兵がいまだに禍根となっているのも仕方がないことかもしれません。私はそのとき、歴史の重みというものを痛感しました。

けれども、過去は過去としてしっかり受け止め、前を向いて歩いていかなければなりません。私は、こんな風に話しました。

「・・・両国にどんな過去があったのか直接は知りません。しかし、歴史をさかのぼると、日本があなたがたの国に迷惑をかけてしまったことは確かなようです。それについては謝罪します」

そうやって、素直に謝るべきところは謝る。それから、一緒に未来について考えていく。それでいいのではないかと思います。韓国の人たちもそんな私の姿勢に納得してくれたからこそ、交流が続いてきたのでしょう。（p31~32 地球に国境はない）

そうなのでしょうか。私（青井）は常々思うのですが、多方面で国際交流を促進しようとするならば、英語教育だけでは不十分。先人の海外諸国との交流や外国の舞台での日本人の活躍の歴史を、教えるべきだと思います。

私は米国加州に駐在していたとき、メキシコ側にある国境の町ティワナによく買い物に行きました。町では小学校の低学年と思われる子供らが物売りをしていました。ひとりから買うと他の子らが押し寄せてくるから買わないように旅行社から忠告されていました。

しかし、帰国後、明治政府の施策でメキシコに入殖した日本人の苦難の歴史を読みました。どんな艱難辛苦ものともせず、メキシコを第2の祖国として入殖先で尽力する態度にメキシコ政府は感銘を受け、第2次世界大戦中も敵国民となった日本人を収容所に入れず、普通の生活を保証したというではありませんか。（『漫画・メキシコ榎本殖民史～サムライたちのメキシコ』京都国際マンガミュージアム発行）

私はメキシコ入殖者に対してもメキシコの少年にたいしても恥ずかしい思いです。数人の少年の持っていた物を全部買って上げても、値切った皮のスーツの代金に及ばない。私は少年達に「今日はたくさん売れてよかった！」と思って貰いたかったという思いです。

ちなみに、日本の朝鮮半島統治に関する歴史事実を軽視して韓国の要求にひたすら応じる愚を、百田尚樹氏は独特の諧謔的表現で戒めています（大放言、p.86-91、日本は韓国に謝罪せよ、新潮新書、760円＋税）。ご存知かもしれませんが、百田氏は「頼まれてもいないのにしてあげてしまったことを謝罪せよ」と書いたので、「あの百田さんが!？」とネットがいつとき騒然となりましたが、日本の統治が実にコンパクトにまとめられています。

★朝鮮全土に5,200を越える小学校を建て★上流階級（両班）でなくても読めるようにハングルを小学校の必須科目にし★朝鮮には印刷所がなく東京で教科書を製作して持ち込み★239万人が就学し★90%以上と言われた文盲率が急激に下がり★後にその多くが国立大学となる36の師範学校を作ったうえに★帝国大学まで作り、京城帝国大学の図書館予算は東京帝国大学の10倍もあった。
☆朝鮮人にしてみれば、「人をバカだと思っているのか!？」と怒りたくもなるだろう。

★身分制度を廃し、奴隷制度をなくし★幼児売買や児童売春も禁止し★残酷な刑罰を廃止させた。
☆いやしくもその国が長年正しいと思って施行してきた制度を勝手に廃してしまうことは、伝統を

破壊する暴挙と言われてもしかたがない。

★禿山に6億本の木を植えて★農業用のため池を大量に作り★現在あるため池も半分は日本が作ったものであり★100キロしかなかった鉄道を6000キロにまで増やし★道路や河川を整備し★多くの橋を作り★ダムまで作り★海岸には港や防波堤を作り★工場や発電所を作り★病院を作り★都市には下水道までも整備した。☆賢明なるヨーロッパ諸国は植民地に学校などは作らなかったし、植林もせず、河川の整備もせず、ダムも作らなかった。植民地の資源や農作物を収奪して輸送するため必要最小限の鉄道を敷いたくらいだ。だから今の多くの国が恨まれていない。

★荒地を開墾して耕作面積を2倍にし★人口を2.5倍に増やしてしまった。☆多額の予算をつぎ込み、東北が飢饉に見舞われたとき、多くの女子が身売りされたが、日本は自国をほったらかしてまで朝鮮半島で好き勝手を行っていた。朝鮮人が怒るのも当然だ。

☆日本文化を朝鮮人の生活に持ち込んでしまったがゆえに、朝鮮独自のものと勘違いさせてしまった。桜の季節になると「ソメイヨシノは韓国が発祥」と言うが、桜を愛する文化を持ち込んで勘違いさせた責任は日本にある。

☆朝鮮の文化と伝統を破壊した例は枚挙にいとまがない。証拠がない「従軍慰安婦」の話ではない。

【注】誤解を避け論旨を明確にするため、冊子の内容に加除を行っています。

沖縄基地問題～国連攻防

翁長知事 v s 我那覇真子氏

沖縄県の翁長雄志知事は9月21日（日本時間22日未明）、スイス・ジュネーブで開かれた国連人権理事会で演説し、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への移設について、「沖縄の人々は自己決定権や人権をないがしろにされている」と訴えました。石垣島からジュネーブまで飛行機を乗り継いで約13時間かけての旅。日本の都道府県知事が国連で演説するのは初めてのことだそうです。

ただ、ネットでご覧になった方もおられると思いますが、演説という言葉から受ける印象は、実態とは随分異なるようです。大会議室のような会場で、決められた発言席に流れ作業のように座って、大急ぎで一方的に2分間しゃべります。1日に100人が次々と演説するそうです。

沖縄では、知事の演説が決まったころから、「知事の誤った発信を放置すべきではない」という危機感が高まり、名護市民の我那覇真子さん（26歳）が同じ人権理事会で知事に反論する演説を行う準備を始められたそうです。

国連では、演説に対し反論があれば、どちらが真実であるか調査して結論を出すことになっており、我那覇さんの演説が実現したことで、翁長知事の言い分がそのまま通ることはなくなりました。我那覇さんの冊子『沖縄から日本の未来が見える～祖国・日本のために私がしたいこと』とジュネーブの国連人権理事会を取材された八重山日報（9月27日付）を同封致しました。目下、講演活動にお忙しい我那覇さんですが、来年2月11日（紀元節）には高知県で講演される予定です。

救う会愛媛・拉致問題

特別失踪者調査会の荒木和博代表のメルマガとそれに対する南木隆治氏（保守最大のMLみなきクラブ主宰）の投稿を紹介させていただきます。長文になりますが、きっとご納得いただける内容であると存じます。

【調査会 NEWS2034】(27.11.9) ■責任者 荒木和博

拉致問題に19年近く関わってきて、今頃こんなことを言うようでは呆れられるかもしれませんが、週末、この国には拉致被害者を救出する責任のある国家機関はないのではないかと、ふと思いました。

例えばどこかの町で火事が起きたとき、消防署が放置していれば署長の責任が問われるのは当然です。先日のペルー人の埼玉での連続殺人事件でも逃亡を許した警察の責任が追及されています。

しかし拉致は、政府が認めているだけでも未遂も含めて14件21人もが被害にあっており、14人は未だ救い出されていないのに、その責任は誰も問われていません。もちろん、14人以外の被害者については、「認定の有無にかかわらず」という言葉でごまかしているだけで、実質何もしていないに等しい状態です。

現状が続いている責任はどの機関・部署にあるのでしょうか。外務省なのか、警察なのか、防衛省・自衛隊なのか、官邸なのか。少なくとも農水省ではないはずで、責任のない役所をはずしていけばどこに責任があるか明確になるでしょうし、責任がある人間は救出ができないなら責任をとらなければなりません。それがはっきりすれば責任を負わされた人間は必死になってやるのではないかと、あらためて思いました。

「オールジャパン」が全員の責任＝全員の無責任であってはなりません。誰に責任があるのか。今度大臣に会ったら聞いてみようと思います。あるいは国会で質問してもらった方が良いのかも知れません。誰にも責任がないという答弁はできないはずです。何を今更というような話ですが、もう一度本質を考え直す必要があると思いました。

【南木氏→荒木代表】

私は北朝鮮と我が国は「戦争状態」にあると、被害者の方々が現段階で訴えておられない事が、事態が停滞している最大の理由であると思います。現に、「戦争による被害」を受けているのに、普通の犯罪による被害を受けているような訴え方をしているのは、対応する部署があるはずがありません。国民を拉致した以上、相手は「犯罪国家」なのではなく、「戦争」を我が国に仕掛けたのです。国家は個別的自衛権を発動して、我が子を取り返してもらいたいと訴えるのが、被害に遭った国民が言う

べきことだと思います。

最初は、そこまで思わなかったにしても、相手の本質が分かってきたどこかの段階で、そう考えを切り替えるべきだったと思います。今からでも遅くはないと私は思っています。

戦争を仕掛けたのは相手ですから、過去のどの段階の憲法解釈でも、個別的自衛権を発動できたと思います。大砲や、ミサイルを撃つだけが戦争ではありません。「拉致」という「戦争」を仕掛けられたのに、それを自覚せず、事態を黙認していた事によって、暗黙の内にわが国は北朝鮮に対して「敗戦」状態にあるのだと思います。もしかしたら、過去の政府の要人の中にさえ「共犯者」がいたかもしれません。そうであっても、この状態を「戦争状態」と認識すれば、展開は変わったと思います。

「政府は直ちに全軍を挙げて、北朝鮮と交戦状態に入る決意をせよ」と、なぜ被害者の家族の方々は言わないのですか。それを言い出せるのは、拉致被害者の家族の皆様だけです。そして、そうしていれば、間違いなく全ての拉致被害者を取り戻せていたでしょう。

私の子供が目の前で拉致されれば、私は犯人にすがり付いてでも、殺されてでも、幽鬼となっても、その犯人を追い続け、地の果て、宇宙の果てまでも追いかけるでしょう。相手がそれに銃を持って立ちふさがれば、私も銃を手に入れて応戦し、相手がミサイルを使えば、私もミサイルを入手しようとするでしょう。つまり、外国人を拉致するという事は、戦争を覚悟しなければ、できない事なのです。

政府が動かなければ、ハンストもしたでしょう。防衛大臣に、「なぜ全軍出動して我が子を助けないのか、見捨てるのか」と迫ったでしょう。そしてそれを全国民に訴えたでしょう。「何のために我が自衛隊はあるのか、国民が軍国主義の外国に拉致されているのに救えないのだったら、自衛隊は国民の税金泥棒じゃないか」と政府と、自衛隊を罵ったでしょう。それで「相手に核があるから戦争はできない」と政府が言うのだったら、「では、我が国も核武装せよ」と言ったでしょう。

そういった事が行われていれば、我が国は、現在の我が国とは相当違った状態になっており、慰安婦問題なども何もなかったかもしれません。今後も、国民と政府が、外国から仕掛けられる「戦争」、あるいは「準戦争状態」に毅然とした姿勢を見せなければ、国民のたどる運命は同じ事になるでしょう。

安倍首相は良くやっておられるし、これ以上はスピードアップできないほど、国防体制を築いて行ってくださっていますから、対北朝鮮情勢も、そう遠からず改善されると私は確信しています。そのとき「拉致問題」は必然的に解決されますが、それが来年だったら良いですが、10年後だったら、被害者のご家族の皆様は、それまで待てるはずがないでしょう。それなら今すぐにでも、上記「戦争状態である」「個別的自衛権の行使を」と訴え始められるのが最も重要かと存じます。そのこと自体がまた、東亜細亜の冷戦を早期に終結させる一つの動きにも繋がると愚考いたします。私が被害者の親や、兄弟であれば、必ず賛同者を募り、そう訴えると思います。

大変失礼な物言いで恐縮です。思っているままを書きました。どうか一刻も早く全拉致被害者が帰国され、ご家族の皆様と再会される事を祈っています。

【調査会 NEWS2039】 (27.11.15) ■憲法 荒木和博

今日憲法にからめて拉致のお話しをする機会がありました。

準備をしながら、またお話しをしながら色々思ったのですが、拉致被害者の救出に憲法が障害にな

るなどというのはどう考えてもおかしい。また、今の政府の状態ではどんな憲法を作っても救出などしないでしょうし、逆に今の憲法のままだもその気になれば何でもできるはずです。

北朝鮮で体制に異変が起きて、拉致被害者の生命に危険が及ぶ可能性があるとき、救出に自衛隊を送ることについて政府の答弁は「自衛隊法上は派遣について北朝鮮の合意が得られないから救出に送れない。国際法上は認められるが日本は憲法9条があるからどう考えても特殊部隊を送ったりすることはできない」というものです。

もちろん北朝鮮の合意が得られるはずはありません。まあ体制が混乱していて判断をする主体がなくなったりとか何かこじつけることはできますが、今の状態ではそんなこともしないでしょう。

「国家緊急権」の概念からしても、憲法を超越する事態には憲法を超越した対応をするしかありません。私は法律のことは苦手ですが、単純に考えれば当たり前のことです。そもそも北朝鮮の工作員は日本国憲法を守って侵入したわけでも、拉致したわけでもないのですから。

前にも書いたようにこの国には拉致被害者の救出に責任を負う機関がなく、のんびんだらりと続けてきたストックホルム合意以来の交渉も結果が全く出ていません。いまだに「ストックホルム合意から1年半」とか「調査委員会発足から1年4か月」とか寝ぼけたことを言っているマスコミがありますが、もともと「再調査」など北朝鮮に「調べたら出てきました」という口実を与えるためのものに過ぎず、時間をかければできるというものではありません。このままでいけば10年経っても同じことです。それで良いというなら政府は被害者やその家族が死ぬのを待つだけのことしかしていないということになります。

見捨てるなら見捨てるとはっきり言った方が良い。そうでないなら憲法がどうか屁理屈を付けないでどうやったら被害者を取り返せるか具体策を立てて誰かが本当に責任を負って実行した方が良い。

【南木先生→荒木代表】拉致と憲法9条について

国民が外国に拉致された事が明らかになった時点で、この重大な主権侵害への警告と、国民の生命を守るために、個別的自衛権が発動されなければならないことは、憲法9条などと何の関係もない、全ての人間、国家に与えられている「自然権」の発動であると思います。

北朝鮮から見れば、自国の国民が拉致されているのに、その国民を救うための個別的自衛権の発動すらできない日本国政府は、人間としての心を持たない悪魔の政府であると言われても仕方がありません。

「我が国は貴国に対して個別的自衛権を発動しますが、それでもよろしいか」と北朝鮮に問いかけるべきでしょう。それで「原爆を落とす」とか言い始めたら、我が国も核武装するしかないでしょう。

私は、どうして拉致被害者の家族の皆様が、政府に個別的自衛権の行使、つまり自衛隊の出動を、人間がとるべき当たり前の行動として要請されないのか不思議です。世界中の国は皆そうする事が当たり前だと考えると思います。若者を中心に、「拉致被害者救出」運動は再度もり上がりつつあります。しかし、デモを行っている主催者も事態打開へのビジョンを示しているわけではありません。

個別的自衛権を行使しないなら、もっと大卒で、国際情勢を我が国が主体的に工作し、北朝鮮の体制崩壊までタイムスケジュールを立てて動くべきです。私は安倍首相はそう考えて動いておられると思っています。しかし国民の声として「個別的自衛権を行使せよ」と言う声が大きければ、首相とし

てはどれほど動きやすいでしょうか。ぜひ、そのような声を、被害者家族の皆様から出していただけませんか。いずれにせよ、半島情勢は来年中に大きく動くのではないのでしょうか。

10月23日に救う会愛媛（会長・中矢民三郎氏）の拡大役員会が開催されました。そこで確認された27年度下半期の運動方針を以下の通りご報告申し上げます。

- 街頭活動 日程：毎月第2土曜日 場所：松山市駅前（いよてつ高島屋前）
時間：午後1時～2時 日程：12月、1月、2月は別のイベントのため休止。
- 人権集会・イベント 12月10日（木）拉致問題を考える研修会 会場：県庁第2別館大会議室
講師：救う会会長 西岡力氏
被害者・家族会 斉藤文代氏（拉致被害者・松本薫さんの姉）
主催：愛媛県長寿介護課 お問い合わせ電話 089-912-2434
参加料：無料 事前申し込みは不要
- 北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12月10日～16日）強調タイアップ行事 啓発パレード
日程：12月19日（土）出発式：15時 坊ちゃん広場
行程：坊ちゃん広場→銀天街→大街道→一番町口 解散：16時30分

○椿祭り 拉致問題啓発活動

日程：平成**28**年**2**月**14**日（日）～**16**日（火）

場所：椿神社境内

上記役員会で、市駅前での街頭活動のとき、中高生の無関心がひどいという発言がございました。近隣の学校を訪ねて、生徒への啓発授業をやっていただくようお願いされたいのではないかと思います。人権も主権も侵されていることを知らないで大人になる若者は可哀相です。選挙権が与えられても正しく行使できるのでしょうか。拉致問題は彼らを正しい国家観に目覚めさせる1つの突破口ではないのでしょうか。

めざす会の担当は、椿祭りの最終日、2月15日（月）の14時から16時までの2時間でございます。みなさまのご参加をお願い申し上げます。ご協力いただける方は、事務局までご連絡下さいませ。

◆◆◆ 事務局から ◆◆◆

★ラグビーW杯の最中に届いた天皇陛下のお言葉に選手たちは感涙—9月19日の南アフリカ撃破は世界中のラグビーファンを湧かせました。日本代表の闘いぶりにチャールズ皇太子は天皇陛下にメッセージを送られ、陛下は皇太子に返信されると同時に、現地の代表メンバーにお言葉を送られたそうです。選手の方々への取材を総合すると以下のような内容になるそうです。「日本チームの勝利に、チャールズ皇太子からお祝いのメッセージをいただきました。皆さんの奮闘は日本だけではなく、世界から注目されているのです。次戦以降の活躍も期待しています」。 (女性自身 12月1日号)

★10月20日、皇后陛下は満81歳のお誕生日をお迎えになられました。お誕生日に際してのお言葉

で、忘れられない出来事として、ペリリュー島での日米戦死者への慰霊を挙げられました。「かつてサイパン島のスーサイド・クリフに立った時、3羽の白いアジサシがすぐ目の前の海上をゆっくりと渡る姿に息を呑んだことでしたが、この度も海上保安庁の船、『あきつしま』からヘリコプターでペリリュー島に向かう途中、眼下に、その時と同じ美しい鳥の姿を認め、亡くなった方々の御霊に接するようで胸が一杯になりました」と述べておられます。また、終戦の玉音放送の原盤が今年公開されたことなどについて、「戦後70年となる今年、昭和天皇の終戦のご詔勅の録音盤や、終戦が決められた御前会議の場となった吹上防空壕の映像が公開されるなど、改めて当時の昭和天皇の御心を思い上げることの多い1年でした。どんなにかご苦勞の多くいらしたであろう昭和天皇をお慰み申し上げ、その御意志を体し、人々の安寧を願いつつおられる陛下のお側で、陛下の御健康をお見守りしつつ、これからの務めを果たしていければと願っています」と。

★大村智・特別名誉教授のノーベル賞受賞が発表された翌日、今年の生物・医学賞は大村教授が受賞されることを予想していた若い女性研究者が民放テレビに登場。教授が書いて下さったという色紙を披露されたのですが、そこには「敬神崇祖」と書かれていました。

★ラグビーのワールドカップにおいて日本代表が強豪を破って3勝を上げる歴史的快挙に日本中が湧きました。試合前に、選手全員が肩を組んで国歌を歌う姿は、リーチ・マイケル主将による"特訓"の成果であったそうです。代表選手31人のうち10人が海外出身者を占める中、結束を固めるために、試合前の合宿で行ったことが「必ず全員で君が代の練習」だったそうです。

★親学推進協会会長・高橋史朗先生は、35年間勤務された明星大学を9月に早期ご退職され、ライフワークである歴史研究に身を投じられるとのこと。（親学推進協会 メルマガ・11月15日付）

★日本会議の「日本の息吹」11月号は憲法改正特集号です。《5冊600円》で頒布中です。下記事務局までご注文下さい。年末年始にお会いになる方にお渡し下さい。11月11日に1万1千人以上が参加して「今こそ憲法改正を！万人大会」が開催されました。百地章先生監修の冊子のちらしを同封致しました。是非お求め下さいませ。

★11月25日は憂国忌でした。護国神社では三島由紀夫・森田必勝両烈士の追悼慰霊祭のあと、「三島さんへの想い」と題して日本会議愛媛県本部顧問・重松恵三氏が講話されました。戦後70年にして「暗黒」時代から脱却、日本のルネッサンスが始まろうとしています。

★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は現在、2,000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒791-0221 愛媛県東温市上村甲 218

TEL 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

ホームページ

<http://www.mezasukai.com/>

メール michikoaoi25@yahoo.co.jp